

日本大学東北高等学校同窓会会報

桜 OUDA 采

NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1955

第13号

～おかげさまで60年～

多くの同窓生の皆様に支えられて、母校同窓会も60周年目を迎えました。10月9日(金)には、創設60周年を祝う記念式典が開催されます。10年に一度の節目となる式典にどうぞ多数の方々のご参加をお待ちしております。
※詳しくは11ページをご覧ください。

発行日/2015年8月1日

発行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1

編集/日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



現在の校舎



創立当初校舎



現在の入学式



昭和37年の入学式



平成10年5月完成のアカシア館(食堂棟)



昭和30年頃の校内食堂



平成11年の予餞会



昭和45年8月1日に完成した食堂



昭和60年頃の食堂



昭和38年の予餞会

題号秘話

桜の枝がしだれるという「桜采(おうだ)」の命名とデザイン文字は、創刊当時の廣長威彦氏によるものです。そこには、「幹としての本部と枝としての支部がひとつとなって、互いに成長し続けよう。」との想いが込められていました…。(桜采8号より)

同窓会創設60周年 に寄せて

日本大学東北高等学校 同窓会会長
15期生 柳沼 正人



1955年(昭和30年)4月3日(日曜日)に第一回同窓会総会が開催され「日本大学東北工業高等学校同窓会」が発足しました。会員相互の親睦と母校の発展に寄与することを第一の目的とした本同窓会も早や60年の節目を迎えました。

この節目に当たる年をお祝いいたしたく、同窓会創設60周年記念式典を10月9日(金)郡山ビューホテルアネックスで開催する運びとなりました。人生における60年は還暦に該当しますが、母校や本会の60年の歩みも一言では語りつくせません。歳月を重ねるたびに、また、10年の節目ご

とに時代の変化を読み取ることができます。

ぜひ、創設60周年記念式典にご参加賜りますようお願い申し上げます。

さて、私も会長として12年目を迎えました。平成17年の秋に50周年をお祝いしたことがつい最近のことのように感じます。また、その間念願の会報誌「桜朶(OU DA)」が8号から復刊し、この度13号の発刊となりました。母校とOB・OGの方々と繋ぐ絆として、会員の皆様からは喜びの声が数多く寄せられております。

今後も会報誌「桜朶(OU DA)」を通じて皆さんとの絆をより一層強くし、母校と本会が多くの方々へ愛されるものとなるよう願ってやみません。東北はもとより全国にその名を轟かせる母校として益々発展していけるよう、同窓生一同心から応援していきたいと思っております。

同窓会小史

- 昭和三十年 日本大学東北工業高等学校同窓会発足
- 初代同窓会会長に長谷川武氏(第一期生)就任
- 昭和三十一年 同窓会新聞「桜朶(おうだ)」創刊(七月十日)
- 昭和三十三年 同窓会新聞「桜朶(おうだ)」創刊(七月十日)
- 昭和三十四年 第二回同窓会会長に半沢忠氏(第二期生)就任
- 昭和三十七年 同窓会新聞「桜朶」(6号)紙上にて同窓会の名称を「桜朶会」と称する同窓会本部案が提出される。
- 昭和三十九年 第三回同窓会会長に寺田宏氏(第二期生)就任
- 昭和五十八年 第四回同窓会会長に伊藤寿彦氏(第一期生)就任
- 昭和六十二年 日本大学東北高等学校同窓会会則で、同会を「アカシア会」と称する。
- 平成十年 「アカシア会」の表記を「アカシヤ会」と変更
- 平成十二年 第五回同窓会会長に小野公一郎氏(第三期生)就任
- 平成十五年 第六回同窓会会長に柳沼正人氏(第十五期生)就任
- 平成十七年 同窓会創設五十周年記念式典開催(ホテル八マツ)
- 平成二十二年 会報誌「桜朶」復刻(四十四年ぶり)

同窓会発会趣意書

四季の恵みのゆたかな阿武隈川の畔りで、三年間、私たちは工都の沌雑から離れて静かな梓の中で社会に出るため、その基礎を学び人生の意義を論じたものでした。

思えば夢の様な三とせの月日でありましたが、やがて、私達は在校生から又先生方から激励の言葉をたまり崩れと認識を新たに思い出深い学び舎を去ったのであります。そして社会生存競争の苛酷ともされる現実に向き合ひ、誠実に生き様とした三年間の夢は余りにも無惨に打ちひしがれ、或る者は自身を失墜し、或るものは逆境の打開に幾度か心緒を費したことでしよう。その様な境ぐうに有つて思い出すのは、三年間「つ屋根の下」に学んで来た友の顔であります。「卒業」の二文字に依つて私達の友情が損なわれるのはかなしむべく、しかも争い得ない事実はないでしょうか。美しく咲きにおつた友情の花が簡単にほうむり去られる事なく、お互いの旧情をあたため親睦を固り且つ又母校の発展をねがい、そしてお互いの境ぐうを語り合ひ、消息を知らせ合うところ、に大いなる意義があると信じます。

そして総会、あるいは機関紙を通じて日頃のふんまんを媒介し合うならば必ずや我々同窓生に益ある事と信じます。この様な趣旨のもとに、去る三月十三日第二回の発起人会を開き之らについて色々と協議し、尚且学校当局並にP・T・Aの協力を得て、自由な意見を交換し同窓会の必要を認め合いましたわけです。

ここに述べた意を充分お含みの上同窓生諸君の自由な意見をお述べ下され、又協力を得まして一日も早く同窓会の結成される日を望んで止みません。

発起人 同 代表 長谷川 武

同窓会発会の趣意書(原文のまま)



高田 一二先生

日本大学東北工業高等学校との出会い

先生は、昭和6年地元徳定のお生まれ。中学・高校と須賀川に通い、その後日本大学工学部で電気を専攻。在学中はNHK郡山放送局でアルバイトを経験する。「その頃は放送機材などないので、すべて自製。調子が悪い時は、放送終了後の夜中に分解調整し、朝の放送に間に合わせるという職人たちの離れ業を何度も見てきた」と語る。高校赴任は大学の恩師のアドバイス。「初めはNHKへの就職を考えていたけれど、先行き不透明な時代なので大学に残るよう勧められました。私は先生というタイプではないので悩みましたが、結局教員を選択しました」

教壇に立ったのは、第7期生が入学した年。「初めて担任した時の生徒は忘れません。私も1年生で必死だったよ」と、インタビューに同席してくれた酒井さんに微笑みかける。酒井孝昌さん(昭和35年卒 7期生 電気科2組)は最初の教え子の一人。「当時の先生としては珍しく、物静かで優しくかったですね。だから僕らは血気盛んな生徒(輩)から先生を守らなければとよく話したものです」と当時をふりかえる。「そう私はね、本当に多くの生徒に守られて、先生にしてもらったんですよ」と微笑む先生。

当時のクラスは50～70名。100名を超える生徒を前に声を張り上げて授業をしたことも。教科は「電気」・建築科の「数学」・建設科(土木科・建築科合同クラス)の「電気一般」。

海軍の木造兵舎の細長い教室は、遠距離通学者と下宿者の真剣なまなざしで埋め尽くされていた。「現場で役立つ知識や技術を得ようとみな必死だった。本当に昔は骨のある生徒が多かった。不真面目な生徒を叱り飛ばす生徒がいたほどだった…」と語る。教室と自宅は目と鼻の先。「家内がね、私が大声で授業しているのを聞いては、今日も夫は元気になっていると確認していたようです」と照れる。

忘れられない修学旅行

BOX席にベニヤ板を渡した貸し切りの夜行列車。人員確認で一コマ。何回数えても一人足りない。血眼になって探す。列車内を何度往復しても見つからない。事故に巻き込まれたか…。諦めかけた瞬間、網棚の上から躰(いびき)が…。その時の安堵感は今でも忘れないという。また米を家庭から回収し、証明書を添えて旅館に送っていたが、発送前に不足が発覚。再度回収する時の辛さは言葉では言い尽くせないという。列車内に侵入したヤミ米の運

び屋らしき女性が、目の前で警察に逮捕される恐怖の現場にも遭遇した。

夜中に卒業生からの電話…

「先生、テキスト〇〇ページの〇〇について教えてください」という教え子の声。卒業時に「電気のテキストは捨てるな!必ず役に立つ時が来るから」の言葉が現実になり、嬉しかったと目を細める。「デジタル化の本当の意味は普通の人には難しいと思いますが、電気を学んでいた私には理解し易かったのです。漁船で、暗号化された電波の話が出た時も、現在の仕事仲間(土木関係)での話でも、どうしてそんなに電気に詳しいのと言われることが多いのは、先生のご指導の賜物です」と酒井さん。

玄関先の卒業生

「先生が元気で良かった」と言うので、「どうした」と尋ねると、「昨年父親が亡くなって、先生のことを思い出して来た」とのこと。その言葉に胸を熱くする。ある時は、須賀川の町中を歩いていると「先生!畑で採れた野菜を持って行って!先生だけ特別だからね」と声を掛けられた。よく見ると担任ではなかった卒業生だ。今でも年賀状のやり取りが続く卒業生が多い。教師であることの幸せをしみじみ実感するという。

二人のお孫さんが母校と元勤務校で学ぶ幸せ

今年8月で84歳になる先生。二人のお孫さんが小さい頃、自転車に乗せてキャンパス内をよく走った。現在一人は工学部の大学院生、一人は日大東北の2年に在籍することのこと。

「昔はね、あまり話さない人だったけど、今は少しおしゃべりになったよ」「何にでも関心があってね、それがボケない秘訣かな」と笑う。元々手先の器用な先生は、家電や水回り・壁の修繕も元気にこなす。また工事現場で稼働する最新機械見ると、時間を忘れて眺めるほどの機械好き。

校内の散歩中、朝練の生徒に声を掛けられるのは、何とも心地よく嬉しいという。「学校の敷地内にいるとね、不思議に今でも現職かと錯覚することがあるんですよ」と語る先生の心は、今も現職のままだ。



高田一二先生(左)と歓談される酒井孝昌さん(右)

当時はふりかえって

教育も労働も全てが混乱を極めた時代 共に生きた2期生として

昭和30年卒 2期生 工業化学科
寺田 宏氏

昭和30年卒 2期生 機械科1組
藤谷 周孝先生



卒業後、長きにわたり、同窓会会長を務められた寺田宏様、工業科の教師として母校に戻られた藤谷周孝先生。共に昭和27年入学の2期生として学び舎を共にし、後に第3代同窓会長(22年間在任)と同窓会担当教員として相見え、母校へ戻られたお2人に、高校時代の思い出や就職されてからのこと、また現在のお暮らしなど、母校への思いを伺いました。

無我夢中で受けた大学レベルの授業。

高橋 高校時代の思い出で、特に印象に残っていることをお聞かせください。

寺田 私たち2期生が入学した頃、日本の教育現場はまだ安定していませんでした。まずは住むところと食べることが大事で、教育は二の次でしたね。入学生生の年齢もバラバラで、あきらかに年上と思われる同級生も大勢いましたよ。

藤谷 当時、先生が教材として使っていたのは、大学の講義内容を書き留めたノートでした。中学を卒業したばかりの高校1年生には、難解過ぎて全く理解できませんでしたが、みんな無我夢中で先生のお話や板書した内容を書き留めていましたね。

寺田 みんな必死でしたね。私は野球部の練習が終わった後、八幡神社(安積国造神社)の隣にあった武徳殿に通って自習、その後はその近くのそろばん塾にも通っていました。その頃の生徒はみな、高校で身に付けられるだけの知識を身に付けて、早く社会に出て、家庭を守りたいという強い思いを持っていたように思います。

高橋 寺田さんは野球部員として活躍され、卒業後はOB会の会長も務められましたね。

寺田 高校に入学するとき、あと3年で社会人になるのだから、しっかり体を鍛えておかなければと思い、野球部に入部しました。入部しても、スパイクもユニフォームもない。先輩方でも、スパイクを支給されるのは試合のときだけ。2年生になって、先輩のお下がりももらうまで、ボロボロのグローブを使っていましたね。ここに来ると、自分たちが汗を流した日々を思い出します。

先の見えない波瀾万丈の時代を生きる。

高橋 卒業後、藤谷先生は横浜、寺田さんは東京の会社に就職されました。就職してからのことをお話いただけますか。

藤谷 当時は学生や学校より採用側が強い時代でした。卒業前、就職先が決まっていたクラスメートは半分も

いなかったのではないのでしょうか。私が最初に就職したのは、大阪造船所横浜工場でした。就職試験後は本当に慌ただしかったですね。3年生の11月末に試験を受けて合格し、一度は学校へ戻ったのですが、12月になってすぐ、会社から「1月4日の仕事初めにはこちらへ来るように」と連絡があり、正月明けの1月3日、同じく合格した同級生らと共に上京しました。そうこうするうち、今度は学校の事務から「卒業試験を受けるように」と手紙が届き、本当に慌てましたね。なにしろ働き始めてからは、全く余裕がなく、勉強なんてしていませんでしたから。

寺田 私の就職先は、当時国内初の燃えない断熱材を研究開発していたパラマウントガラス工業株式会社でした。入社したのは3年生の12月20日。そこからずっと就職先で働き、学校へ戻ったのは、卒業式の前々日でした。

高橋 藤谷先生は就職後、芝浦工業大学の夜間部で学ばれていますね。大学へ入ろうと思ったきっかけは何だったのでしょうか。

藤谷 働き始めて半年も経たないうち、希望退職者の募集があり、その翌年には約1,000名が解雇を言い渡されました。一緒に横浜へ行った同級生たちは、私より1、2歳年上で、一度働いた経験がありましたから、今後のことをいろいろ考えたのでしょね、「これからは大卒の資格がないと駄目だ」と、夜間大学の入試を受けるべく、願書を集め始めました。私は比較的のんびり構えてしまいましたが、志望大学を絞り込んだ同級生が、芝浦工業大学の願書は不要だということで、それをもらって提出しました。夜間は時間数がギリギリでしたから、風邪をひいても授業には出席していました。私はなんとか卒業しましたが、なかには配



置転換などで、中退せざるを得なかった人もいました。

高橋 寺田さんは、最初は工場に勤務され、その後、管理部門に異動されていますね。

寺田 当時のパラマウントには、ガラス器具を専門に製造する部署と、ガラス繊維を使った最先端の断熱材を作る部署がありました。私は最初、ガラス繊維の部署に配属され、その後、ガラス器具の部署に配置かえになりました。ところが、1年もしないうちにその部署が閉鎖され、再びガラス繊維の部署に戻るようになったのです。戻ってから、以前の経験がかわれ、管理部門に異動になりました。今から考えると、実に波瀾万丈な時代を生きてきたものだなあと感慨深いですね。

当時をふりかえって

高橋 藤谷先生は昭和38年、工業科の教師として母校へ戻られました。教師になろうと考えたきっかけを教えてくださいませんか。

藤谷 教師になる前年のお正月、担任の先生のお宅に顔を出したとき、先生から「教師として工業科で教えてみないか」と言われたのが、きっかけでした。先生が1年間の臨時免許を準備してくださったので、翌年は教壇に立ちながら、母校の芝浦工業大学で集中講義を受け、工業科教師2級の免許を取得しました。当時、国は工学教育に力を入れており、そのための施策の一つとして、工業科の教師を増員する臨時措置法を施行していました。教職課程を取っていなかった私が教師になれたのは、そうした時代背景も関係していると思います。

同窓会会長と同窓会担当教員として。

高橋 おふたりは卒業後、同窓会会長と同窓会担当教員として、再び母校と関わりを持ち、顔を合わせるようになりますね。

寺田 私が同窓会会長になったのは昭和40年です。その前は半沢忠さんが会長で、廣長威彦さんは事務局を担当していました。私は定期的に役員会に参加させていただきました。名簿の作成や、同窓会のバッジ制作などについてよく話し合ったのを覚えています。

私を会長に推薦したのは、当時同窓会担当教員の森田先生でした。それまで1期生の先輩がずっと会長を務めたからでしょうか、「そろそろ2期生の君が会長をやれ」と言われたのです。廣長さんもそれに同意され、2期生初の同窓会長を引き受けることになりました。その後、森田先生が教頭になられたため、藤谷先生がその後任となったのです。自分と同じ2期生の先生に出会えて、本当に嬉しかったですね。

藤谷 森田先生からいきなり「同窓会担当教員として、打合せに出席するように」と言われて、ビックリしました。役員会への出席だけでなく、同窓生として、当時郡山在住だった同窓生らと一緒に廣長さんの家に集まり、卒業生に郵送する会報誌「桜朶」の袋詰めと発送作業を手伝ったこともありました。作業が終わるのは、いつも夜中の1時過ぎ。それなのに「桜朶」の半分以上は戻ってくる。廣長さんはいつも「一体何のためにやっているのか」と嘆いていましたね。

寺田 Dマークの同窓会バッジの配付を取り止めたのも、廣長さんでしたね。廣長さんには、本当に同窓会にご尽力いただきました。随分申し訳ないことをしてしまったような気がします。作品を創造する貴重な時間を同窓会のために割いてくださったことを思うと…。

横断幕(「立て！打て！勝て！」)のデザインも廣長さんの手によるものです。もともとは全てのクラブが試合などで使えるように作ったのですが、最近は野球の時だけとか…。他には、県内の企業に絞った同窓会名簿を作ったこともありましたね。私も各企業の総務担当に話をし

協力をお願いしましたが、今は個人情報保護の観点から、難しいでしょうね。

高橋 現在、同窓生は3万名を超えています。そのうち生きた名簿は2万6000名。ほとんどの皆さんは、インターネットのホームページを通しての連絡ですが、やはりお年を召した先輩はハガキでの連絡が多いです。多くの方々に支えられて、なんとか同窓会の活動を続けています。

寺田 藤谷さんをはじめ、普通科の教師だった郡司君、猪腰君、太田君、石川君、母校で教鞭を取っている後輩が数多くいるのは、非常に心強いことですね。森田先生、石川先生、松崎先生がいらした頃も、集まるたび、よくそういう話をしていましたね。

高橋 現在は25名の同窓教職員がいますが、母校に対する思いは人一倍強いように私には感じられます。恩師との縦の関係を継承し、生徒同士をつなぐ横の関係の要になれるよう努力をしたいと思います。

趣味を楽しむ充実した日々を送る。

高橋 最後にお二人の最近の状況やご趣味について教えてくださいませんか。

藤谷 定年退職してから、もう13年も経つのですね。現在、陶芸と畑仕事に精を出しています。野菜栽培の楽しさは、成果が目に見えること。今はトマトやキュウリ、ナスなどの夏野菜が最盛期。日射しが強い日中を避けて、早朝の5時頃から畑仕事にいそんでいます。

寺田 私は30年前から民謡を、15年ほど前から詩吟を習っていて、どちらも教師の資格も取得しています。今は知り合いが経営する特別養護老人ホームで民謡を指導するボランティアを務めています。民謡を習い始めたのは、40代後半から。仕事の合間のわずかな時間を縫っては教室に通いました。忙しかったけれど、充実していましたね。つくづく時間は貴重なものだと感じています。ただぼんやりと過ごすよりも、夢中になって体得したものがあると、後からきっと役立つと思います。若い後輩の方々にも、ぜひそうしたものを見つけて欲しいですね。

高橋 お二人とも充実した日々をお過ごしのおようです。これからも時々母校にお越しいただき、いろいろな面で先輩としてアドバイスをいただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

平成27年6月6日(土)午後1時30分～ 聞き手(高橋 敏行)



寺田 宏さん

藤谷 周孝先生

平成26年度 母校の様子 1年間のあゆみ

4月 April

- 7日(月) 入学式
- 8日(火) 対面式／着任式／始業式
- 10日(木) 校外オリエンテーション(1年、～12日)
- 17日(木) 日大標準学力テスト(3年)
- 26日(土) 後援会総会・学級懇談会

5月 May

- 1日(木) 全校集会／生徒総会
- 12日(月) 授業参観(第1回～17日)
- 19日(月) 1学期中間試験(～22日)

6月 June

- 2日(月) 衣替え／全校集会／教育実習(～21日)
- 25日(水) 1学期期末試験(～28日)

7月 July

- 8日(火) 校内体育大会
- 13日(日) アカシヤ祭(一般公開)
- 19日(土) 終業式
- 22日(火) 三者面談開始(～8/31)

9月 September

- 1日(月) 2学期始業式
- 8日(月) 第2回研究授業(～12日)
- 18日(木) 生徒会役員選挙
- 27日(土) 校内マラソン大会

10月 October

- 1日(水) 衣替え／全校集会
- 6日(水) 2学期中間試験(～9日)
- 16日(木) 芸術鑑賞会
- 27日(月) 第2回授業参観(～31日)

11月 November

- 4日(火) 全校集会
- 8日(土) 日大統一テスト
- 16日(日) 修学旅行(A班～20日)
- 17日(月) 修学旅行(B班～21日)

12月 December

- 3日(水) 2学期期末試験(～6日)
- 24日(水) 2学期終業式

1月 January

- 13日(火) 3学期始業式
- 14日(水) 特別授業開始(～29日)
- 18日(日) センターチャレンジ
- 20日(火) 本校推薦入学試験(～21日)

2月 February

- 5日(木) 一般入学試験
- 10日(火) 第3回研究授業(～13日)
- 14日(土) 予餞会
- 27日(金) 賞状授与式・卒業式予行演習

3月 March

- 1日(日) 第62回卒業証書授与式
- 3日(火) 3学期期末試験(～6日)
- 20日(金) 第3学期終業式

平成26年度行事



入学式



アカシヤ祭



校内マラソン大会



九州縦断修学旅行(長崎平和記念公園)



卒業式

クラブ活動の記録

第69回国民体育大会

- 陸上部
 - 女子 成年女子 4x100mリレー 8位 新田 彩(郡山五)
- 体操部
 - 女子 少年女子団体 遠藤由佳子(郡山三) 佐藤亜佑美(郡山六)
- テニス部
 - 女子 少年女子団体 伊勢野みづき(矢吹) 橘 薫乃(郡山二)

第69回国民体育大会

- 水泳部
 - 女子 個人 50m自由形 星野美沙希(行健)
- ライフル射撃愛好会
 - 男子 個人 BRS60JM 熊懐 龍(石川)
 - 女子 個人 BRS40JW 鈴木 瑞歩(矢吹)
- 剣道部
 - 男子 団体 福島県チーム(大将)鳥羽 雄馬(安積)

第11回安芸全国書道展高校生大会

- 書道部
 - 書道振興会会長賞 小野 里佳(須賀川三)
 - 書道美術館賞 草野 瑞穂(矢吹)
 - 優秀賞 相樂日奈子(須賀川一)

第37回全国選抜高校テニス大会東北地区大会

- テニス部
 - 女子 団体 1位

第37回全国高等学校柔道選手権大会 東北地区大会

- 柔道部
 - 女子 個人 体重別 2位 根本愛生里(安積)

第30回東北インドアテニス選手権大会プリジストンカップ

- 硬式テニス部
 - 女子 個人 ダブルス 2位 伊藤 萌夏(岳陽) 2位 邊見 文香(野田)

第38回高校囲碁選手権大会

- 囲碁
 - 女子 個人 3位 服部 由佳(石川)

※詳細は学校H・Pをご覧ください。

平成26年度 卒業生合格状況 平成26年度卒業生総数430名

日本大学	217名	国公立大学	46名	他私立大学	248名
専門学校	62名	就職	6名	※延べ人数	

◆ 日本大学

法	9	商	11	理工	29	生物資源	12
文理	15	芸術	6	生産工	26	短大	1
経済	12	国際関係	6	工	82	専門学校	8

◆ 国公立大学

東北大学	2	岩手大学	1	大阪府立大学	1
横浜国立大学	1	福島大学	15	福島県立医科大学	2
東京農工大学	1	山形大学	2	会津大学	2
千葉大学	1	弘前大学	1	秋田県立大学	2
埼玉大学	4	秋田大学	1	都留文科大学	1
新潟大学	2	群馬大学	1	会津大短大部	3
宇都宮大学	1	富山大学	1	山形県米沢女短大	1

◆ 私立大学

東京理科大学	12	芝浦工科大学	6	東京電機大学	2
青山学院大学	1	東京農大	1	東北薬大学	3
明治大学	1	北里大学	5	国際医療福祉大学	9
中央大学	2	東洋大学	7	拓殖大学	2
法政大学	1	駒澤大学	1	獨協医科大学	1
立命館大学	2	専修大学	5	金沢工科大学	2
成蹊大学	1	文教大学	2	ほか	
明治学院大学	4	東京都市大学	2	※詳細は学校H・Pをご覧ください。	

平成26年度 退職された先生

※敬称略



[地歴公民科]
小林 直喜
こぼやし なおき
昭和47年4月1日～
平成27年3月31日



[英語科]
圓谷 広行
つむらや ひろゆき
昭和57年4月1日～
平成27年3月31日



[英語科]
佐藤 サト
さとう
平成20年4月1日～
平成27年3月31日



[国語科]
西牧 成子
にしまたけ なるこ
平成21年4月1日～
平成27年3月31日



[理科]
渡邊 陽介
わたなべ しょうすけ
平成24年4月1日～
平成27年3月31日



[理科]
大塚 祐介
おおつか ゆうすけ
平成24年4月1日～
平成27年3月31日



[数学科]
小玉 真理子
こたま まりこ
平成25年4月1日～
平成27年3月31日



[数学科]
佐藤 明大
さとう あきひろ
平成25年4月1日～
平成27年3月31日



[保健体育科]
小豆畑 真木子
あずはた まきこ
平成25年4月1日～
平成27年3月31日



[保健体育科]
鈴木 純
すずき じゅん
平成25年5月18日～
平成27年3月31日



[理科]
青柳 輝彦
あおやぎ てるひこ
平成26年4月1日～
平成27年3月31日



[理科]
磯田 悠太
いそだ ゆうた
平成24年4月1日～
平成27年3月31日

三世代賞



平成26年度は、写真左から越田拓斗君(郡山一)、岩谷絵美梨さん(本宮一)、小原大貴君(湖南)、渡辺美咲さん(郡山三)、安部晃史君(猪苗代東)、安部楓麻君(猪苗代東)、國分和樹君(行健)、古川竜也君(郡山七)、吾妻沙耶香さん(郡山二)(当日欠席)、赤沼吉太君(宮城)の10名が受賞。受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品としてタブレットが贈られました。平成25年度までに19名の受賞があり、今回の10名を合わせると計29名の受賞となっています。

※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表すもので、平成15年度に設けられました。



昭和36年卒 8期生 機械科1組 古宮 芳彦氏

7回目のクラス会開催

平成26年6月1日、機械科3年1組恒例となっている2年に1度のクラス会を、新緑あざやかな塩原温泉で開催しました。塩原温泉は、明治の文豪夏目漱石や尾崎紅葉等多くの文人墨客に愛された温泉地として有名です。前回(桜朶10号で紹介していただいた時)は参加者15名でしたが、今回は諸事情により9名の参加でした。2年ぶりの再会を互いに喜び合うとともに、今後も健康に留意し、このまま元気に喜寿のお祝いをしようと誓い散会となりました。



<お詫び・事務局より>

平成24年6月2日 於:ホテルハタ

※本来12号に掲載の予定でしたが、編集部の手違いにより今回となってしまいました。関係の皆さまには心よりお詫び申し上げます。なお、幹事の古宮様の許可を得た上で、写真と本文はそのまま掲載させていただきました。

昭和52年卒 24期生 普通科5組 大塚 公章氏

小林直喜先生退職を祝う会(野球部OB会)

約130名が集う中、先生は「親の心情で生徒との時間を大切に過ごしてきた」と当時をふりかえられました。



平成26年10月25日 於:郡山ビューホテルアネックス

昭和38年卒 10期生 電気科2組 渡辺 忠義氏

第2回吹奏楽部OB会

渡辺忠義会長(電気科2組 昭和38年卒 10期生)の呼びかけで、5月23日(土)、第2回のOB会が「比内やサスケ」にて開催されました。

国分欽智先生より贈られた「卒業記念メダル」のエピソードに会場は大いに盛り上がりました。



平成27年5月23日 於:比内やサスケ

昭和49年卒 20期生 土木科 小林 誠氏

土木科第20回卒同級会

この度は、昭和48年度・日本大学東北工業高等学校土木科卒業同級会に遠路遙々ご出席いただき本当にありがとうございました。土木科を卒業し、42年が過ぎようとしておりますが、60歳の還暦を迎え、中には定年とともにリタイアという方もいらっしゃると思います。

しかし、これからが第2の人生の始まりでもありますので、健康には十分注意され、5年後あたりにまたお会いできることを期待します。

それでは、またお会いできることを楽しみにしております。



平成27年1月10日 於:磐梯熱海温泉・青陵山倶楽部

支部だより



須賀川支部総会および懇談会 平成27年5月22日(金) グランシア須賀川

午後6時30分より総会および懇親会が開催された。学校から来賓として松井校長・柳沼会長・高橋事務局長らが招待され、終始和やかな雰囲気の中で会が進行した。



県南(白河)支部総会および懇談会 平成27年7月4日(土) ホテルサンルート白河

午後6時30分より定例の総会および懇親会が開かれた。学校からは松井校長の代理として、この4月から着任された添田喜彦事務課長(普通科1組 昭和62年 第34期卒)、柳沼正人会長らが来賓として招待された。

お近くの支部へ連絡をご希望の方は、最終ページのはがきまたは、HPの問合せフォームより事務局までご連絡ください。追って最寄りの支部をご紹介します。

平成26年役員・支部名簿・連絡先・会則変更点については、下記ホームページをご覧ください。
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

退職教職員の会総会

平成27年5月9日(土)アカシヤ館にて、日本大学東北高等学校退職教職員の会「平成27年度総会」が行われました。本校をご退職された教職員20名が出席し、平成26年度の活動報告、27年度活動計画や役員の改選等についての審議が行われました。

11月には郡山ビューホテルアネックスで懇親会(昼食会)が開催される予定です。



おめでとうございます



教育功労賞受賞

昭和37年卒 9期生 普通科2組
黒沢 忠氏

昨年11月4日、郡山市民文化センターで行われた市制90周年・合併50周年記念式典の中で、本校出身の黒沢忠様が「郡山市教育功労賞」を受賞されました。

この賞は郡山市の学校教育・教育行政・社会教育・保健体育の振興に貢献し、その功績が特に顕著である方に贈られるもので、「長年にわたり、郡山相撲協会理事長など



を歴任し、相撲の指導に尽力するとともに、国体等で競技役員としても活躍するなど、市の体育の振興発展に寄与した」として、その功績がたたえられました。

叙勲おめでとうございます

この度、「瑞宝双光章」と「瑞宝単光章」、以下の3名の方が叙勲を受賞されました。「瑞宝双光章」と「瑞宝単光章」は日本の勲章の一つで2003年に創



瑞宝双光章

昭和38年卒 10期生 機械科1組
富樫 勝美 氏

設され、それぞれ瑞宝章6つの中の5番目と6番目に位置します。国家または公共に対して功労のある方を対象とし、その職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、授与されるものです。

二本松出身(本宮市高木在住)。

昭和38年に福島県巡査拝命。

主に地域部門を歩み、新白河交番所長で退職するまで住民の安全確保に尽力した功績が認められる。「地域や家族の支えがあって41年の警察生活を全うできました。」



瑞宝単光章

昭和39年卒 11期生 建築科
須藤 和徳 氏

郡山出身(郡山市大槻町在住)。

半世紀の間に掘削した井戸・温泉の数は数千本。平成7年からさく井職種で技能検定委員を務め、後継者育成に尽力した。平成10年から全国さく井協会東北支部理事、18年から県さく井技術協会会長などを歴任。「人と人のつながり、周囲の協力がなければ、前に進むことはできませんでした。」



瑞宝単光章

昭和48年卒 20期生 建築科
佐久間 雅弘 氏

玉川村出身(郡山市片平町在住)。

昭和51年に陸上自衛隊に入隊した。自衛隊体育学校に13年間勤務し、アジア大会や五輪選手をめざす自衛官を精神面で支えた。「光栄です。つらいときに支えてくれた、全ての人に感謝しています。」

版画2点が「大英博物館」に所蔵

昭和29年卒 1期生 電気科2組 廣長 威彦 氏

本会報誌「桜朶(おうだ)」の発行に携わり、同窓会草創期の礎を築かれた廣長氏が、今春4月15日～23日まで、郡山市民文化センターにおいて「画歴55年展」～民家・日本の原風景を描く～を開かれた。「大英博物館」に所蔵された2作品も展示された。

■画歴〈無所属〉

- 1945 日本大学東北工業高等学校卒業
油彩・水彩・版画はすべて独学
- 1960～ 全国の民家をテーマに取材し、昨年2014年で55年を継続して現在に至る。
- 1983 東北の民家百展／仙台県民ギャラリー
- 1984～'88 「雪国の民家」「民家往来」「民家余情」版画展／横浜三越
- 1987 集落と町並み百展／郡山市民文化センター
- 2000 日本・名残りの家並み展／秋田県角館町平福記念美術館
- 2011 「原点回帰1961～2011」油彩画展／郡山市民ふれあいプラザ
- 2015 「画歴55年展」民家・日本の原風景を描く／郡山市民文化センター



大宇陀の町並み 1985 奈良 ◆大英博物館所蔵
江戸期と明治期の繁栄した貴重な町並み遺構が現存する。



銅山町残影/吹屋 1985 岡山 ◆大英博物館所蔵
銅山で繁栄した産業城下町。白壁と赤瓦の家並が、往時の面影を残して圧巻。



平成27・28年度総会および 60周年記念式典御案内



平成27年・28年度総会および60周年記念式典ご案内

平成27年・28年度の総会と創設60周年記念式典を下記の日程で開催いたします。
万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

- 開催日時：平成27年10月9日(金)
 午後5時30分より 第1部 定例総会
 午後6時00分より 第2部 記念講演
 午後6時30分より 第3部 創設60周年
 記念式典・祝賀会
- 開催場所：郡山ビューホテルアネックス ※立食形式となります
 福島県郡山市中町10-10 電話:024(939)1111(代)
- 会費：お一人様 5,000円(当日徴収)※懇親会費として
- 申込方法：参加ご希望の方は、綴じ込みはがき(右下)によりお申し込みください。
- 申込締切り：平成27年9月10日(木)

参加申し込み注意事項

- 総会のみのご参加は無料です。
- 無断欠席並びに締切り期限以降のキャンセルは実費請求申し上げます。
- お問い合わせ先：024-956-8856
 同窓会事務局：高橋 敏行
 Eメールアドレス：takahashi.toshiyuki@nihon-u.ac.jp

なお、当日は第2部で桂幸丸師匠(本名:二瓶真一、昭和48年卒 20期生 普通科1組)の記念落語が、また第3部では、この春日本クラウンから演歌歌手としてデビューした



津吹みゆさん(本名:津吹 実佑 平成26年卒 61期生)のステージも予定しています。

幸丸師匠は、寄席はもちろん、テレビ・ラジオにも数多く出演されるなど幅広くご活躍中です。

一方、津吹さんは高校2年のとき、地元福島で開催された「NHKのど自慢」で合格したのがデビューのきっかけです。「会津・山の神」で故郷福島への熱い想いを届けてくれることと思います。

皆様のお越しをお待ちしております。



~~~広告協賛のおねがい~~~

創設60周年を記念し、「桜采」創刊号から最新号までの縮刷版「同窓会創設60周年記念号」(写真)を発行いたします。

つきましては、OB・OGの方々から広く広告の協賛をお願いいたします。詳しくは当会のホームページをご覧ください。

何卒皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げます。



平成27・28年度総会および 60周年記念式典の参加希望申込書

- 印を付して
返送を
お願い致します
- ◆平成27・28年度総会
 出席 欠席
- ◆60周年記念式典
 出席 欠席

●同窓会会報についての質問・ご意見・ご要望等があれば、下記へご記入の上、ご投函ください。

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、下記の印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

会報・案内の送付を希望しない。

日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



事務局よりお知らせ

《全国大会出場選手への激励金贈呈式》

7月13日(月)柳沼正人会長より全国大会出場選手への激励金贈呈式が行われました。なお全国大会出場の部愛好会は、陸上・体操・水泳・柔道・剣道・硬式テニス・相撲・ライフル射撃愛好会の8団体です。



《会報誌発送に関するお願い》

諸事情により、今号から同一住所(一家庭)一部の発送とさせていただきますことになりました。何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

《平成28年夏発行予定の「桜采(OUDA)14号」の原稿を募集いたします。》

今後も高校時代の思い出「当時をふりかえって」やクラス会等の記事を継続募集いたしますので、事務局までお寄せください。応募要領は次の通りです。ご本人のお名前・卒業年度・科・卒業時担任名・連絡先(住所、電話、FAX番号またはPCメールアドレス)を明記の上ご応募ください

- 1) 原稿内容: 高校時代のエピソード。
- 2) 文字数: 400~800字以内。
- 3) 締切り: 平成28年6月30日(木) 到着分まで。
- 4) 応募方法: メール、FAX、郵送でもお受けいたします。
- 5) 応募先: メールアドレス takahashi.toshiyuki@nihon-u.ac.jp
- 6) 応募先: TEL/FAX 024-956-8856
- 7) 応募先: 住所 〒963-1165 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地 日本大学東北高等学校同窓会事務局 会報誌編集室あて

《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采OUDA」1号~13号のバックナンバーもご覧いただけます。

編集後記

今夏も皆様に会報誌「桜采」13号をお届けできますことを心より感謝申し上げます。特に取材インタビューに応じてくださった高田・藤谷両先生をはじめ、寺田元会長・酒井先輩のお二方、また各支部・クラス会だよりにご寄稿下さった皆様、さらに夜を徹して編集にご協力いただいた共栄印刷の方々、

本当にありがとうございました。先生方と同窓生が一堂に会し、青春時代の思い出話に花を咲かせていただけるよう、「創設60周年記念式典」の準備が進行中です。どうぞお近くのお友達とお誘い合わせの上、ご参加いただければ幸いです。それでは当日、会場でお待ちしております。【事務局一同】

郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0

料金を受取人払

郡山局承認

1236

郡山市田村町徳定字中河原1

日本大学東北高等学校

同窓会事務局 行

差出有効期限
平成29年8月5日迄
です。切手をはらず
にお出ください。



現住所	〒		都道府県
TEL	携帯		
		生年月日	男・女
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築		

【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。
上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。

個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシア会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会事務局
郡山市田村町徳定字中河原1
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

